

リンドウ ‘F1しなの3号’ は少量土壌培地耕で摘心と遮光で安定的に増収する			
【要約】 リンドウ ‘F1しなの3号’ の少量土壌培地耕において3月上旬に摘心すれば無摘心よりも草丈50cm以上の切り花が多く収穫でき、また遮光することで障害花の発生が抑えられる。さらに一定の長さで収穫すれば、収穫後の芽数が増加する。			
農業技術振興センター・花・果樹研究部・花き係		【実施期間】 平成29年度～令和元年度	
【部会】 農産	【分野】 戦略的な生産振興	【予算区分】 県単	【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

関西仏花や加工用組花の花材として、リンドウは盆、彼岸、年末時期に農産物直売所や花束加工業者からの需要が大きく、草丈は50cmあれば十分である。そこで、少量土壌培地耕を用いて短茎で安定的に収穫できるとともに夏期の高温による障害花の発生を抑制できる技術について検討する。

【成果の内容・特徴】

- ①リンドウ ‘F1しなの3号’ では定植2年目の3月上旬に摘心することで、50cm以上の切り花本数が無摘心よりも1.3倍以上増加し、着花段数も4段以上確保できる。ただし開花は8日程度遅れる（表1）。
- ②定植3年目では、5月下旬から給液量を増やすと切り花長は長くなるが、切り花本数や開花に差はなかった（表2）。
- ③障害花の発生は遮光することにより抑えられ、遮光条件下で給液量を増やすことでさらに効果は高まった（表3）。
- ④切り花長60cmの一定長で収穫すれば、収穫後の芽数の増加割合は株元で収穫した場合よりも高くなる。また6月中頃から9月末まで遮光すれば、さらに芽数は増加する（図1）。

【成果の活用面・留意点】

- ①この成果は施設内の少量土壌培地耕で冬季無加温による結果である。
- ②定植はプランター当たり6株植えて、定植1年目は株養成とし、収穫は2年目からとする。
- ③遮光資材は「タイベック 700AG®」を使用した。

[具体的データ]

表1. 摘心が切り花本数、品質および開花に及ぼす影響 (2018年)

試験区	切花長 (cm)	切花長50cm以上の割合 (%) (①)	切花本数 (本/株) (②)	50cm以上切花本数 (本/株) (①×②)	着花段数 (段)	50%採花日 (月/日)
摘心なし	108.9	96.5	5.3	5.1 (100)	7.5	8/15
摘心あり	73.8	78.5	8.9	7.0 (137)	4.6	8/23

注1) 定植日は2017年4月28日、摘心日は2018年3月9日。

注2) 施肥はOKF-1 2000倍希釈液 (EC0.5ms/cm)。

注3) 給液量は300ml/プランターで1~3回/日。

注4) 50cm以上切花本数の()内は品種ごとに摘心なし区を100とした比率を表す。

表2. 給液量が切り花本数、長さ、開花に及ぼす影響 (2019年)

給液量	切花本数 (本/株)	切花長 (cm)	50%採花日 (月/日)
標準	6.4	107.3	8/20
1.5倍量	6.6	119.7	8/20

注1) 定植日は2017年4月28日。無摘心。

注2) 施肥はOKF-1 2000倍希釈液 (EC0.5ms/cm)。

注3) 給液量は標準区で1日1プランター当たり4月は0.6L、5~7月は1.2L、8~9月は1.8L、10月は0.6L、11~12月は0.3L。

1.5倍量区は6月以降、標準区の1.5倍量とした。

表3. 給液量、遮光が障害花に及ぼす影響 (2019年)

試験区		障害花率 (%)	障害花茎率 (%)
給液量	遮光		
標準	なし	12.8	33.3
	あり	6.5	22.7
1.5倍量	なし	20.4	42.3
	あり	5.7	14.8

注1) 障害花率 (%) = 障害花数 / 総着花数 × 100。

注2) 障害花茎率 (%) = 障害花が1花以上ある茎数 / 全茎数 × 100

注3) 施肥、給液量は表2の注2)、3)に準ずる。

注4) 遮光は6月13日~9月30日まで株上約150cmにクハック700AG®を展開した。

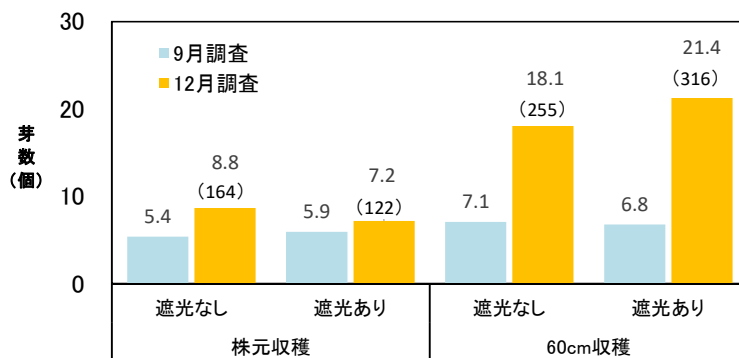


図1. 収穫位置、遮光が収穫終了後の芽数に及ぼす影響 (2019年)

注1) 12月調査の芽数数値の下、()内は9月調査の芽数からの増加割合 (%) を表す。

注2) 施肥、給液量は表2の注2)、3)に、遮光は表3の注4)に準ずる。



[その他]

・研究課題名

大課題名：戦略的な農畜水産物の生産振興に関する研究

中課題名：野菜等園芸作物や近江の茶の生産振興

小課題名：関西仏花および組花加工向け花材の栽培方法の確立

・研究担当者名：野 雄大 (R1)、籠 洋 (H30~R1)、北村 治滋 (H29~H30)

・その他特記事項：令和元年度滋賀県園芸振興大会 (花き部門) において発表。